

平成 28 年度 SGH グローバルアクションプログラム カンボジア研修  
実施期間 平成 29 年 1 月 13 日 (金) ~20 日 (金) 8 日間

○第 1 日 1 月 13 日 (金) 8:15 関西国際空港 4F 出発カウンター前集合



SGH グローバルアクションプログラムカンボジア研修のスタートです。全員、遅れることなく集合し、元気な顔を見せてくれました。



カンボジアは 30 度以上の気温だということで、上着の中は半そでというスタイルで搭乗します。

**全員元気に集合！**



ベトナム航空の機内食です。今日のメニューはすき焼きでした。



機内は比較的的空席があったため、リラックスして過ごすことができました。しかし、機内のオーディオの調子が悪かったため、映画鑑賞は断念。

**機内の様子**



トランジット先のハノイに到着しました。全員元気です。



ノイバイ国際空港第2ターミナルは非常にきれいな空港でした。トランジットの待ち時間中、ベトナムコーヒーを味わうつもりが、普通のコーヒーを注文してしまいました。

#### ノイバイ国際空港（ハノイ）



#### シェムリアップ国際空港にて



ハノイから1時間40分のフライトを経て、ついにカンボジア（シェムリアップ）に上陸。

到着後、直接夕食会場へ。今晚のメニューは本格的クメール料理でした。食事中、隣のイスラエル人御夫妻とお話をさせていただきました。娘さんが柔道をやっておられ、国際試合のために何度か来日されているそうです。イスラエル国内で2位の実力の持ち主だとおっしゃっていました。もしかして、オリンピックに出ていたのかも。

○第2日 1月14日（土）



今日の研修はアンコールトムからスタートです。観光客はすべて、事前に顔写真を撮られます。その写真が入場券に貼り付けられ、初めて見学可能となります。ガイドのトゥームさんの案内で、午前中いっぱい、アンコールトムの見学をしました。



アンコールは町という意味で、トムは大きいという意味です。文字通りの広大な遺跡群でした。生徒たちも、スケールの大きさに圧倒されていました。ただ、気温が高く、湿気もあったので、少し疲れましたが、全員元気に午前の行程を終えました。

**アンコールトム遺跡前**



昼食・休憩を挟み、午後からはアンコールワットへ出かけます。おなかもいっぱいですが少し眠気が・・・

**今日もクメール料理！**



14:30 頃、アンコールワットへ到着しました。世界中の言葉が飛び交う中、見学をスタート。



ワットとは寺院という意味ですが、お寺にしては広い。広すぎる！1992年に世界遺産に登録されてから、一気に観光客が増加したそうです。この日も多くの人が見学に訪れていました。



遺跡の入り口付近では、多くの物売りや物乞いをする人（子ども）たちがたくさんいました。カンボジアの光と影の部分垣間見た瞬間でした。



アンコールワットといえば、この写真！雲が多く、どんよりしていましたが、何とか水面に映える世界遺産を撮影することができました。

#### 水面に映えるアンコールワット



この日は、15000歩以上歩きました。足がパンパンに張っていましたが、大変充実した一日となりました。

○第3日 1月15日(日)



今日は、シェムリアップでの滞在最終日です。今朝は、トレンサップ湖クルーズに出かけました。クルーズと名がついていますが、視察と呼んだ方が適切かもしれません。水上生活をしている人たちの日常を知ることができました。



乗船してから下船するまで、強烈なおいが立ちこめており、かなりきつかったです。ごみや下水などをメコン川にそのまま投棄したり、垂れ流したりしていることが一因のようです。普段感じるできない環境に身を置き、生徒たちも、色々考えるところがあったようです。

**水上ハウス**



乗船中、船長さんの息子(10歳くらい)が同行していたのですが、私たちのところにやってきては、勝手にマッサージを始め、しばらくすると、お金を要求してきました。子どもに笑顔はなく、淡々とマッサージをしていたのが印象的でした。

**マッサージを受ける生徒**



昼食・休憩を挟んで、午後からはホテル近くの寺院を訪れました。寺院の前の公園で子どもたちが靴投げをしているので、様子を見てみると・・・

彼らが熱心に見つめていたのは、紙幣でした。小学生くらいの子がお金を賭けながら、遊んでいる姿を見て、かなりの衝撃を受けました。



**ゴミ箱を見て回る少年**

公園を散策している途中、日本語を流暢に話すカンボジア人に学校建設のための寄付をしてほしいと頼まれ、署名を求められました。

すべてがお金につながっている現状。観光地を一步離れると見える現実。ホテルに帰ってからも、子どもたちの顔が頭に焼き付いて離れませんでした。



寺院訪問後にオールドマーケットへ。生徒たちは思い思いのお店へ行き、値切り交渉を楽しみながらショッピングしていました。一息ついたあと、ヤシの実ジュースを堪能。地元の人は水代わりに飲んでいる庶民の味方です。ほんのり甘い砂糖水といった感じでした。1ドルでした。



本日の最終訪問先は工房見学でした。たくさんの置物や仏像などを製作している行程を見ました。

一箇所に職人を集め、育成をしつつ、観光客にその現場を見せ、販売につなげるという手法をとっていました。生徒たちも、職人の技を食い入るように見ていました。

○第4日 1月16日(月) シェムリアップ～プノンペンへ移動



3日間お世話になったホテルを後にして、空路プノンペンへ。体調不良の生徒はおらず、順調に日程を消化しています。



空港へ向かう車中、お世話になったガイドのトゥームさんへ感謝の言葉を述べました。ありがとうございました！「オーケン」(カンボジアで「ありがとう」の意味)

**トゥームさんありがとう！**



シェムリアップからプノンペンへ。久しぶりにプロペラ機に搭乗しました。今回は揺れもほとんどなく、快適な空の旅でした。



プノンペン国際空港を出て、プノンペン市内のホテルへ。市内へ近づくほど、渋滞がひどくなりました。バイクやトゥクトゥクが道路を占領しているような状態の中、ホテルへチェックインしました。交差点付近を通ったとき、見覚えのある信号機を目にしました。JICAの支援で日本式信号が100機ほどプノンペン市内に設置され、運用開始を待っている状態だそうです。

**日本式の信号機**



荷物をホテルへ置いた後、すぐに再集合。トゥーン  
スレン刑務所博物館へ向かいました。

この博物館は元々高校の校舎だったものを収容所と  
してポルポトが使用していました。

都会のど真ん中にある建物ですが、中に入ったとた  
ん静寂な雰囲気になりました。見学者たちは声を出さ  
ず、1つ1つの展示物を静かに眺めていました。  
時間が止まったような感覚に襲われました。



クメール・ルージュが行われた 1975 年から 79 年にかけて、200 万  
人以上の人々が命を落としました。



その中でも教員は真っ先に犠牲になった人たちでし  
た。時代と場所が変われば、もしかして私も同じ運命  
を辿ったのでは・・・と考えてしまいました。  
ポルポトが口にしていた言葉「草をとったら草の根  
まで絶やす」が頭から離れませんでした。



最後に、虐殺における数少ない生存者の CHUM MEY  
さんと一緒に記念撮影をさせていただきました。



トゥーンスレン刑務所博物館をあとにして、次に向かったのは、キリング・フィールド。市内から1時間くらいのところです。



刑務所博物館の場所からトラックに積まれ、自分の命がこのキリング・フィールドで露と消えることを知ったとき、どんなことを考えていたのか。自分なら何を考えただろう。車窓を眺めながら、そのようなことをずっと考えていました。

到着後、鎮魂のために作られた寺院の前で供花をし、お線香を焚き、全員で犠牲者の冥福を祈りました。中には多くの遺骨が納められていました。さすがにカメラを向けることはできませんでした。



多くの遺体がクメール・ルージュ後に掘り起こされました。キリング・フィールドには、このような（写真左）穴がたくさんあります。一方、近所の方が放し飼いをしているにわとりが、フィールド内に入ってきて、えさをつつく場面に出くわしました。今ある平和に感謝です。

この日は、ホテルに帰着後も重苦しい気分が抜けないままでした。

○第5日 1月17日(火)



今日は、午前中に王宮と国立博物館を見学しました。現国王はノロドム・シモハニで2004年に前国王の退位を受け、即位しています。王宮の見学途中、現地の高校生と遭遇。記念撮影をしました。

王宮にて



王宮のあとは、博物館です。日本語が堪能な専属ガイドさんについてもらい、館内を巡りました。日本の博物館と異なり、空調設備がないため、かなり蒸し暑く、途中少し集中力を欠くこともありましたが、生徒は一生懸命メモをとりながらガイドさんの説明に耳を傾けていました。





昼食後、ワット・プノンへ移動。ワットは寺院、プノンは丘という意味です。



本堂に入り、見上げると、仏陀の一生が描かれた壁画が目に飛び込んできました。

平日ということもあり、地元の人々が多く、観光客は少なめでした。

参拝後、本堂付近を見渡すと、地元の人が祈禱を受けていました。祈禱中、生の豚肉をお供えに置いていたのには驚きました。

**ワットプノンの壁画**



ワット・プノンを後にして、次に向かったのは、プノンペン日本人学校でした。門の前まで来たのですが、看板が掲げられていなかったため、ガイドさんも少し不安そうでしたが、日本の国旗が掲揚してあるのを見て、間違いのないことを確認しました。



到着後、三浦校長先生にごあいさつをし、部屋へ移動。浦田先生から、1時間にわたり、私たちが事前にお送りした質問に答える形式で、カンボ



ジアの教育事情全般と保健・衛生について、レクチャーをしていただきました。浦田先生は、本当に熱心な方で、生徒の質問に1つ1つ丁寧に答えていただきました。スライド資料もたくさんご準備いただき、大変わかりやすい説明でした。



つづいて、地雷除去の広報活動に携わっておられた曾田先生に、同じく事前にお送りした質問にお答えいただく形でレクチャーをしていただきました。曾田先生にも多くの時間を割いていただき、10以上ある質問の1つ1つにデータや資料を示しながら、お答えいただきました。あと、カンボジアの教育の現状を知るための資料として、曾田先生から、カンボジアの小学校で使用している社会の教科書を見せていただきました。



プノンペン日本人学校の先生方には本当にお世話になりました。ありがとうございました。



夜は、ディナーミーティングと称して、カンボジアに駐在されている銀行員の方とカンボジア国内で黒胡椒を生産・販売されている、倉田社長のお二人とお話をさせていただきました。倉田社長は、カンボジア内戦で途絶えた世界一おいしいカンボジアの胡椒を復活させ、流通ベースに乗せるため、20年以上現地で汗を流してこられた方です。ビジネスの第一線で活躍されている現役のビジネスマンと話し、生徒たちも刺激を受けていました。

○第6日 1月18日(水)



午前中はJICAカンボジア事務所を訪問させていただきました。



小川次長のレクチャー

担当の小川さんにご挨拶をしました。予定時間より早く到着したので、オフィス内を見学させていただきました。その後、9:00よりカンボジア事務所の小島次長から、教育・保健・ガバナンス等についての説明をいただきました。30分間にわたり、詳細にレクチャーをしていただきました。



特に印象に残っていることは、小学校に入学する子どもは96%ですが、中学校に通い続ける学生は53%に下がってしまうということでした。内戦からの復興は進み、経済的に発展を続けているカンボジアですが、経済的な事情で中等教育を断念せざるを得ない状況が多いことを実感しました。



小川次長との質疑応答後、インフラ整備担当の福沢さんから経済インフラの整備プログラムについて、レクチャーをしていただきました。

カンボジアは、メコン川で国が分断されているという地理的な悪条件を克服するため、JICAが橋作り(つばき橋)に協力してきたことを説明していただきました。



また、雨季と乾季で水面の高低差が7mになることから工事完了まで10年の歳月がかかったことを聞きました。橋の完成前、分断された州を行き来する手段は、フェリーしかありませんでした。しかし、橋の完成後は、数分で州を行き来することができるようになりました。日本の技術供与が、国家の問題を軽減する重要な役目を果たしていることを知り、JICAの開発支援の重要性を改めて認識しました。



昼食後、プノンペン市内から 1 時間ほど離れた場所にあるつばさ橋を見学しました。

つばさ橋につながる国道 1 号線は、アジアンハイウェイになっており、海を越えて東京の日本橋まで続いているということでした。



橋を渡り、車窓から橋の全景を見たあと、少し時間があつたので、港町の市場へ足を運びました。店の前には、日本では見かけない食べ物がずらり。蛙、こおろぎ、こうもり、芋虫・・・



興味深そうに前を通る生徒たち。結局、試食することになりました。5 年生の M 君が蛙の食レポを即興でしてくれました。蛙は、鶏肉のような味だとのこと。私は、こおろぎにチャレンジ。お味は・・・うーん、干しえびということでした。



独立記念塔を車窓から見学しました。ライトアップされており、非常に美しかったです。

○第7日 1月19日（木）



研修最終日。爽やかな朝を迎えました。荷造りを終え、朝食を済ませ、8:00にホテルを出発。国立輸血センターが午前中の研修先です。



通常なら15分あれば行ける距離でしたが、朝の大渋滞に捕まってしまいました。45分近くかかりました。道にはバイクがあふれていましたが、ヘルメットをかぶっていない人がたくさんいました。後部座席に横乗している人も多く、非常に危険だと感じました。ちなみに、カンボジアの年間交通事故死亡者は2,200人くらいです。1,400万人の人口比で考えると非常に多い数字です。日本は3,904人（2016年）なので、いかに多いかがわかります。昨年からはバイクの免許制度が廃止されたことも原因になっていると考えられます。



渋滞をくぐりぬけ、ようやく輸血センターへ到着。



国立輸血センター到着後、JICA シニアボランティアで派遣されている臨床検査技師の齋藤さんとお会いし、センターについて、巡回しながら案内していただきました。



日本では輸血はボランティアが基本ですが、カンボジアでは、ボランティアで輸血する人は、ほとんどいないそうです。医師からの要請や家族、親族に輸血が必要な人からの献血がほとんどです。



日本と同様、献血を終えた人には、疲労回復のため、ジュースやお菓子が配られます。



献血された血液の成分データの入力をチェックする方と記念撮影。笑顔が素敵な方でした。



採取した血液を詳細にチェックするため、ドイツ製の高額な機械が導入されていました。

**齋藤臨床検査技師による説明**



センター内の施設について一通り齋藤さんから説明いただいたあと、課題研究のテーマに関して、質疑応答の時間を設けていただきました。齋藤さんは、この3月でJICAのシニアボランティアの任期を終えるそうですが、また何らかの形でボランティアを継続していきたいとおっしゃっていました。



センターを後にして向かったのは、イオンモール蒲ノンペン店でした。日本式を取り入れたモールは、現地の人にも大人気で、週末は駐車場へ入るのにかなり待たなければならないということでした。



昼食後、ロシアンマーケットへ。通路は狭く、迷路のように入り組んでいました。空調設備がないため、ウィンドウショッピングをしているだけで、汗が吹き出てきました。



続いて観光スポットになっているセントラルマーケットへ。マーケットのはしごをしました。ここでも生徒たちは、お店の人と値段交渉しながらお土産を購入していました。



カンボジア研修もいよいよ終わりを迎えます。

16日(月)から19日(木)までお世話になった、ガイドのサウターさんもお別れです。サウターさんはカンボジア国内の日本語スピーチコンテストで優勝されたこともあり、本当に日本語が堪能でした。4日間、本当にありがとうございました。副リーダーのIさんが代表であいさつをしました。

TAI	DESTINATION	TIME	STATUS
KA 200	HONG KONG	19:50	ON TIME
MU 698	BANGKOK-BKK	19:55	ON TIME
MR 117	SIEM REAP	19:55	ON TIME
UL 2288	SINGAPORE	20:15	CHECKING IN
LH 8727	BANGKOK-BKK	20:35	CHECKING IN
ZD 398	HANOI	21:05	CHECKING IN
VN 3690	HO CHI MINH	21:15	CHECKING IN
NM 819	TOKYO-NARITA	22:50	ON TIME
AF 7884	SEOUL-INCHON	23:05	ON TIME
OZ 740	SEOUL-INCHON	23:15	ON TIME
MU 760	SHANGHAI	23:15	ON TIME

空港へは3時間半前に到着しましたが、チェックインに時間がかかり、夕食をゆっくりとる時間はありませんでした。大急ぎでハンバーガーを購入する生徒もいました。



1週間にわたるカンボジア研修を無事に終え、最終目的地の関西国際空港へ向かいます。参加生徒全員は体調を崩すことなく、元気に帰国します。これまでお世話になった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。温かい人柄に触れ、生徒たちはみな、カンボジアのことが大好きになりました。帰国後は、SGH発表会の準備を頑張りたいと思います。